令和4年度教育方針

令和2年から続くコロナ感染症は大きな影響を及ぼし続けており、社会教育、学校教育とも、一つ一つの活動について、方法の変更や規模の縮小が必要となり、中止の選択をしたものもありました。しかし基本的には、感染の状況と危険性を正しく捉えて、予防に十分配慮し、本来の目的を達成する形を工夫して実施するという姿勢で、教育活動に取り組んできました。

その結果として、町民芸能まつりや文化講演会を開催し、成人式は来賓をお迎えして新成人を祝福することができました。小学校の学芸会のオンライン配信も、方法を工夫した一例です。また、小中学校では、消毒や検温をはじめ感染予防に十分配慮したことで、臨時休業もなく無事に学校生活を送ることができました。先生方のご苦勞と、ご家庭のご協力に感謝しております。

また、花祭も、対外的には全地区が中止となりましたが、多くの地区で継承のための工夫をしていただきました。保存会をはじめ、町民の皆様のご尽力に敬意を表します。

令和4年度もコロナ感染症の様々な影響は予想されますが、特に学校教育については学びを止めることがないように、また、

社会教育についても途切れることのないように配慮しながら、充実を図ります。

① 学校教育

学習指導要領に基づく指導が、小学校では3年目、中学校では2年目を迎えます。「社会に開かれた教育課程」、及び「主体的・対話的で深い学び」をキーワードに、子ども達が未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する、知識の理解の質を高める、確かな学力を育成する、豊かな心や健やかな体を育成することをめざしています。

重点事項としては、今の子どもたちの状態や社会の要請を反映し、言語能力の確実な育成、理数教育の充実、伝統や文化に関する教育の充実、道徳教育の充実、体験活動の充実、外国語教育の充実、情報活用能力の充実、個に応じた発達の支援などを挙げています。

一方、東栄町では、平成19年8月に校長会から報告された「東栄町がめざす学校教育」を基に学校教育活動を進めてきました。そこには「基礎的・基本的な力を確実に身に付け自ら考え学びとること」、「命を大切にし、心身のたくましさ和社会性を身

につけること」、「郷土の自然・文化・歴史に学び、ふるさと東栄を愛すること」の3点が示され、伝統的な天地人教育の目標も反映されています。また、小学校と中学校の連続性に着目することの必要性も述べられています。

そして、後期に入った第6次東栄町総合計画では、学校教育について、一人ひとりに応じたきめ細かな教育の推進、知・徳・体が調和した教育の推進、連携教育の推進、食育活動の推進、小中学校の施設・設備の充実、高校への就学支援の6点を掲げ、これに沿って取り組みを進めています。

各学年の児童生徒数が20人前後である本町は、一人ひとりに先生の目が届き、対応もしやすい環境です。この長所を生かして、それぞれの課題を明らかにする教科指導や、子どもの状況を丁寧に捉えて個に応じて育てる生徒指導を推進します。また、特別支援教育では、支援員の配置による授業の充実と、保育園や外部の機関との連携を密にして、子どもの成長に最適な教育の実現を図ります。

知・徳・体が調和した教育はこれまで同様に推進してまいりますが、ここ3年ほど、地域を学ぶ、地域の方に学ぶ機会を増やしています。ふるさとに目を向ける体験活動を今後もいっそう推

進し、全人的な成長を目指します。また、東栄小学校は令和3年年度から北設楽地方教育事務協議会の委嘱を受けて授業改善の研究に取り組んでおり、10月27日に研究発表会を開催する予定です。

令和2年度末に整備していただいた一人一台タブレットは、授業をはじめ学校生活のいろいろな場面で活用しています。今後、一人ひとりの学習に役立てられるよう、持ち帰りについて検討します。

保育園と小学校と中学校の教育の連携については、めざす子どもの姿を保育士さんや先生方にお示しし、つながりを意識して取り組んでいただいております。「子ども達が将来それぞれ選択した社会で、自分の生活を創る力を育てる」ということを第一に考えて、どの子どもにとっても本当に必要な体力・ものの考え方・知識と技能は何かを精選し、東栄町の義務教育で育てる力について検討を続けるとともに、学校運営協議会を組織して、保護者だけでなく地域の皆さんも同じように教育に関心をもち、子どもたちに関われる体制づくりを図ります。

食育の推進は、栄養教諭を中心に、郷土料理や子どもが考えた献立など特色ある給食の提供や地元産食材の利用、給食週間の

活動などに取り組みます。食は生活の基本であり、子ども達の意識が高まるよう継続して働きかけます。

施設・設備の充実について、3年度は特にトイレの一部洋式化や昇降機の設置など、中学校のバリアフリー化を進めました。今後も必要な補修を計画し実施するとともに、特に一人一台タブレットの更新について、財政的な見通しをもち、各所への働きかけをいたします。また、高校への就学支援についても、昨年度と同様に対応します。

コロナ感染症は今後も学校教育に影響を与えることが予想されますが、児童生徒が安全に生活できること、教育を止めないことを優先して対応を判断していきます。

② 家庭・地域による連携教育

小中学校間の連携とともに、学校運営協議会を組織して広報に努め、保護者だけでなく地域の皆さんも同じように教育に関心をもち、子どもたちに関われる体制づくりを図ります。

また、小中学生の地域活動への参加を働きかけ、特に中学生の自治活動への参加意識を高めたいと考えます。その土台として、小学生が地域の方と活動する場面を増やすよう努めます。さら

に、B&Gの活動として、子どもが様々な体験ができる場を増やしていきます。

③ 生涯学習・生涯スポーツ

生涯学習・生涯スポーツについては、各活動の充実及び総合社会教育文化施設の充実と利用促進を挙げています。活動の充実のためには、率先して活動を進める人材が必要です。各団体でのリーダーの育成や人材の発掘を本年度もお願いしていきます。さらに、新たな活動方法の検討や組織の見直しにも取り組んでまいります。また、総合社会教育文化施設については、民芸館の所蔵物のデータ化を始め、整理を進めました。これを活用した広報活動の工夫や企画展など魅力化の方法を検討するとともに、さらに他の各施設の方向性について検討していきます。

④ 文化の保存と継承

文化の保存と継承では、後継者育成の支援と文化財の保存・継承環境づくりを挙げています。コロナ感染症の影響により、花祭は2年続けての休止となりました。町内各地区で工夫して取り組んでいただいておりますが、花祭、盆行事をはじめとする民俗文

化の保存・継承は切実な喫緊の課題です。高齢化と人口の減少が根本的な課題ではありますが、未来の担い手である子どもたちの育成を進める一方で、各地域の代表の方の意見交換の場を設けるなどして、継承のための方策を探っていきます。

また、花祭会館については、展示物の整理や、展示のリニューアルに向けて継続的に取り組み、町内外に向けて、花祭の理解とPRに寄与できる施設としての充実を図ります。

⑤ 多様な学びの場

基本施策 5 の多様な学びの場では、人権尊重の推進、男女共同参画社会の推進、国際化・国際交流の推進、学力を強化する機会の提供を挙げています。

コロナ感染症の影響により、令和3年度も中学生海外派遣事業を中止しました。その代替措置として2泊3日で外国人留学生とともに長野県方面へ出かけ、バスの車中とホテルで英語に浸る語学研修を実施しました。さらに交流校であるカナダの中学校と、2月初めに3日間のオンライン交流を実施しました。今後も、グローバルな人材育成をめざし、小学校、中学校の授業を通して使える英語を習得し、進んで外国人と関わろうとする意

欲の向上を図ります。そのためにA L Tを活用するなど授業を
いっそう工夫し、タブレット端末を活用して会話の力を高める
などの方法を検討します。また、特に中学校では、目的意識を強
く持たせるよう努めます。

また、中学校 1 年生を対象とした地域みらい塾を継続し、学
習の補強を充実します。進路を実現したい、得意な分野の力をい
っそう伸ばしたいといった、全ての生徒や保護者の多様なご要
望に、できる限りお応えできる方法を模索しながら、基礎的な学
力を充実して学校の授業を補い、授業への抵抗を和らげ、学校生
活への適応を応援できるよう努めます。

さらに、学校での学習や活動の様子を広く町民に知らせる工
夫をしたり、学校の外に学習の場や発表の場を広げたりするこ
とで、町全体で取り組む教育の実現、子どもにとっては一人の町
民としての学習の実現を図ります。

学校教育につきましては、保育園から中学校卒業までの子ど
も達の成長について、町民みんなで考え、同じ気持ちで次の世代
の東栄町民を育てる基盤づくりを進めます。また、生涯学習や生
涯スポーツ、文化の継承については、町民の皆さんに関心をもっ

ていただき、一人でも多くの方の参加しようとする気持ちを高めたいと考えます。

そのために、子どもにも町民の皆さんにもわかりやすく教育についてお示しし、誰もが役割をもって参加できることをめざします。